

Vol. 59
2022.

4

 **HAGIWARA** TIMES

大空学園義務教育学校 長寿命化改修建築主体工事 / (仮称)株式会社大果 小樽工場新築工事



●建物外観

大空学園義務教育学校 長寿命化改修建築主体工事



●普通教室



●生徒玄関



●廊下



●体育館

- 工事名 : 大空学園義務教育学校長寿命化改修建築主体工事
- 設計・監理 : 創造・谷津・神田特定委託業務共同企業体
- 施工期間 : 令和2年7月2日～令和4年3月29日
- 施工場所 : 帯広市大空町11丁目4番地
- 発注者 : 帯広市長 米沢 則寿
- 施工業者 : 萩原・イチエイ山田・武田 特定建設工事共同企業体
- 規模 : 校舎棟/RC造 地上3階・運動場棟/S造 平屋建

建築

本工事は、十勝管内で初の小中一貫の『義務教育学校』となり、既存建物を全面的に改修し、今後30～40年建物を維持できる事を目的とした工事となります。1室毎に解体から仕上げ迄の工事を行い、検査、完成、引越しを繰り返した工事でもあった為、学校側には何かとご不便をおかけしたと思います。学校側の御協力、また、工事に携わりました皆様の御協力もあり、無事3月29日に竣工を迎えられました。この場をお借りしてお礼と感謝を申し上げます。

最後に、この工事を担当させて頂き大変光栄に感じております。今後、生徒の皆さんが新校舎で充実した学校生活を送りご成長されることを願っております。

現場代理人:岡本 優二(萩原建設工業)

主任技術者:高橋 孝光(イチエイ山田建設)・山田 幹也(武田建設)



●建物外観

(仮称)株式会社大果 小樽工場新築工事



●打合せ室



●テストキッチン



●廊下



●原料冷蔵庫

- 工事名 : (仮称)株式会社 大果 小樽工場新築工事
- 設計・監理 : 株式会社 創元設計
- 施工期間 : 令和3年4月1日～令和4年2月28日
- 施工場所 : 小樽市銭函5丁目67-2
- 発注者 : 株式会社 大果
- 規模 : 鉄骨造・地上1階・延べ床面積3488.55㎡
- 進捗率 : 100%
- 施工業者 : 萩原建設工業株式会社

株式会社大果様の新工場を施工させて頂きました。大果様は、札幌近郊を中心に安心安全なカット生野菜をコールドチェーン納品する企業です。スーパーの野菜コーナーで売っている、パッケージサラダには、皆さんもお世話になったことがあるんじゃないでしょうか。

工事の方は、当初、令和2年の春に予定していた工事着手も、新型コロナウイルスの感染拡大により、飲食業の低迷が予想され、1年間工事を見合わせていましたが、無事に令和3年の4月に工事に着手することが出来ました。

システムコンサルタントのノムラさんや設計監理の創元設計さんのご指導の下、工事は順調に進み、コロナ禍の影響で、食品工場の心臓部ともいえる冷却機器・空調機器の納入が2ヶ月遅れるアクシデントに見舞われ、建物のお引渡しが1ヶ月遅れることとなってしまいましたが、無事に工場稼働を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。大果さんの更なる発展をお祈りすると共に、更なる増築のご用命をお待ちしております。

現場代理人:石塚 高章 / 現場担当者:羽賀 有希



建築

未来を築く情熱を、挑戦に。



弊社の社是、「闘魂一途」は、創業者の萩原延一の時代から100年を経た現在も受け継がれ、役職員がその志のもとで社業に邁進しています。そうした中で、この先弊社と地域社会を繋ぎ、地域と共に成長していくことをお約束すべく、2022年度から新しいコーポレートスローガン『未来を築く情熱を、挑戦に。』を掲げてまいります。

本スローガンは、社内公募によって集まった総勢64件の中から検討を重ね決定しました。考案者に、スローガンに込めた思いを伺いました。

以下：考案者

まず「歴史に驕らず、全社員が謙虚な姿勢で地元地域の皆様へ挑戦を約束し、全国各地のお客様から信頼を寄せられる企業として成長を続ける」という意思表示として“挑戦”という言葉を使いました。

はじめに社内公募企画を知ったときは、応募するか否か迷いましたが、挑戦なくして成長は得られないと思い行動を起こしました。

挑戦には勇気が必要だと知っているからこそ、スローガンにも“挑戦”という言葉を入れることを決めました。

“情熱”という言葉では、日々生活する中でどうしても忘れてしまうことの多い「熱い気持ちを持ちながら頑張り続けること」を、常に心に留めておけるよう目に見える形で表現しました。過去の経験から、情熱を持ち取り組んだことと、そうではない気持ちで取り組んだこととでは、成果に圧倒的な差が生まれることを知っています。ひとりひとりが情熱を持って働くことで、達成感が何倍にもなると信じています。

また“未来を築く”という言葉には、私たちのつくったものが次世代につながってほしいという願いを込めました。

建設工事はスケールが大きいので、工事中はものづくりをしている実感がありますが、いずれ解体され無くなってしまふものがほとんどです。それでも私たちがつくっている建造物は、道路や橋、病院、商業施設など、生活になくはならないものばかりです。

実際のところ、どの会社がつくったのか気に留める人は少ないかもしれませんが、大切な人や未来の子供たちが困らない社会をつくることのできるこの仕事には誇りを抱いています。たとえ100年後には形に残っていないとしても、誰かの記憶や歴史に残る仕事であり続けたい。そんな思いを“未来を築く”という言葉に込めています。



今月の表紙

撮影：萩原建設工業 営業部・仁藤 正憲

今月の表紙はカタクリです。カタクリは、雪解け後にそっと咲き短く開花する花で、ニリンソウとともに「春の妖精」(スプリング・エフェメラル)と呼ばれる植物です。エフェメラルとは、もともと「はかない命」という意味です。今年も短く美しく咲くカタクリを探してみようと思います。

